

令和2年度予算案が可決 過去最高の1883億円を計上

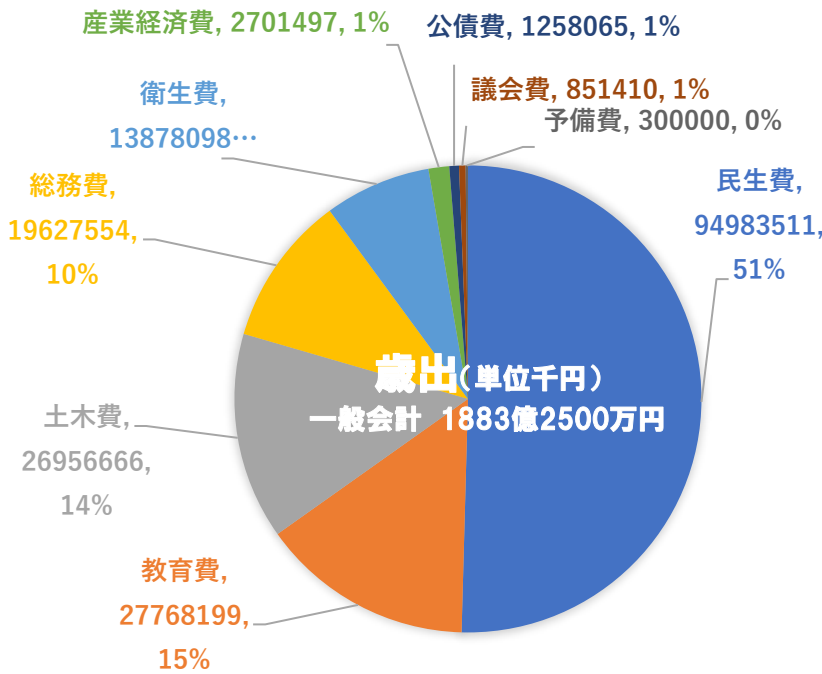
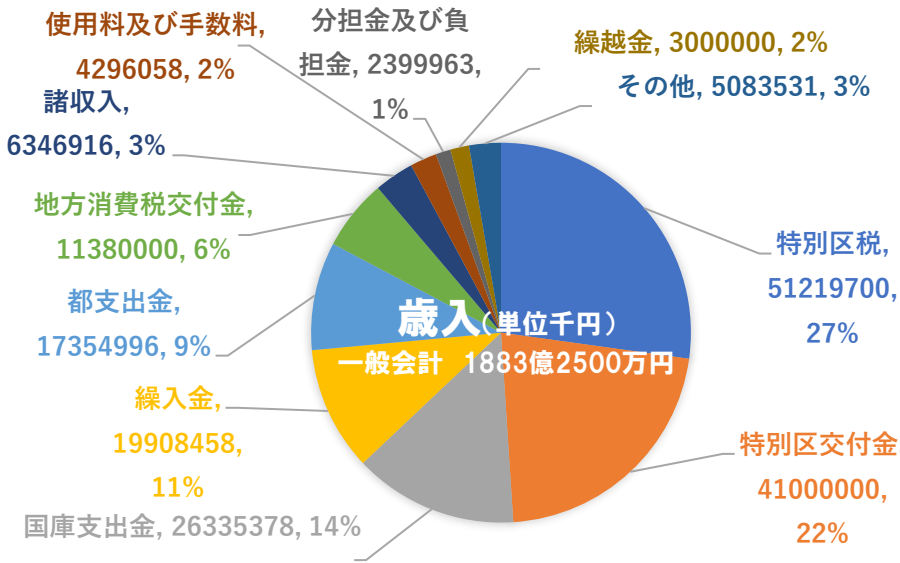
こしば新新聞

区議会自民党 あらた

令和2年3月27日(金) 16号



【お問い合わせ先】
 小芝新事務所
 〒140-0014
 品川区大井5-6-2-101
 ☎090-6106-2272
 Fax03-6303-7037
 ※ご希望の方には新聞をお届け致しますので、ご連絡願います。



- 民生費 ex 保育園の運営や支援、高齢者・障害者の施設整備等
- 教育費 ex 一貫教育の推進、ICT教育、学校の改築等
- 土木費 ex 道路や公園の整備、不燃化プロジェクト、住宅支援
- 総務費 ex 町会・自治会の活動支援、東京2020大会関連事業
- 衛生費 ex 各種がん検診、ごみ回収、リサイクル
- 産業経済費 ex 中小企業・商店街活性化支援、就業支援
- 公債費 ex 学校施設整備費用の償還
- 議会費 ex 議会運営

3月3日から8日間にわたって、予算特別委員会が行われました。私も毎日10分〜15分の時間を頂きまして質問に立ちました。委員会でも賛成多数で決されたのち、3月27日の定例会本会議にて賛成多数で可決されました。ここで、歳出のそれぞれ費用のイメージがつかず、左記の通り、具体例を提示します。

【裏面に続く】

初日 補正予算

きゅりあんのバリアフリーについて

きゅりあんが令和3年度の下半期から約1年を通じまして、館内の内装工事に入ります。(ヤマダ電機は除く。)かねてから東大井に住む方々から、早朝の通勤時間帯は、エレベーターが使えず、階段を使わなければ駅に行けないという声を伺ってました。とくに高齢の方や疾患を抱えた方には、体への負担が重いです。そこで館内のバリアフリーを進めていくべきことを促しました。

また館内の移動がややこしいので、(例えば、駅側のエレベーターに乗った場合の6階へのアクセスが不便など)改善を要望しました。区の答弁では、必ずしも満足のいく回答を得ることは難しかったのですが、今後も引き続き、住みやすい品川区のために、大井町駅周辺のバリアフリー化に向けて地域の声を届けたいと思います。

二日目 歳入

防犯カメラ設置の補助

品川区は防犯カメラが23区で最も多く設置されています。昨年度からは区内全域の公園内にも防犯カメラが順次、設置されるようになってきました。そういう事実がある一方で、品川区が防犯に力を入れていないという印象が外から見ると薄いのです。防犯カメラを扱う会社の工にも品川区には防犯カメラ設置の助成がないなどと誤った情報が出ています。そういう情報を是正するために、的確な情報を区から発信してもらうよう促しました。

喫煙所の整備

今年度からコンテナ型の喫煙所が設置されます。第一号機は、大井町の信用金庫前の喫煙所が廃止され、少し離れた立会道路沿いに設置されます。今後も受動喫煙の弊害をなくす一方で、喫煙者の喫煙する自由も確保できるように求めました。

三日目 総務費

外国人観光客誘致事業

品川区ではアジア・オセアニアなど15か国で区のUJ動画配信したり、日本展や旅行博に参加をして、誘致事業を行っています。その取り組みについてより、具体的な取り組みを提案しました。大型書店のブースや交通機関に動画を流したり、日本語学校や大学の日本語学科にガイドブックを置くなどを提案しました。

しながわ出会い発見事業

品川婚活支援事業のことです。年間で2回行われています。私も、参加条件を満たすため、調査するために参加申し込みしましたが、あえなくコロナ感染予防の措置で中止となりました。港区では「ふれあい婚」というダイレクトな名前で、広報にも力を入れていて、年に3回行い、出会いからカップリングまでフォローしてくれま。品川区でももっと広報活動に力を入れて、実のある事業を展開されるように要望しました。

四日目 民生費

聴覚障害の理解促進

聴覚障害の理解促進、手話言語条例を通じて、聴覚障害への理解を促進してもらいたいことを昨秋の決算委員会です。その後、進捗状況を区に問い合わせました。区の方では、期待できる答弁をいただけました。今後も聴覚障害の方々が生活に参画できるように条例の制定に向けて取り組んでいきます。

ヘルプマークの普及

ヘルプマークとヘルプマークがごいます。いづれも体に障害をお持ちの方、配慮を求めたくても求めづらい方々が身に着けるカードです。このカードが来年度予算で大きく計上されました。必要とされる人には、体の負担が軽減された機能的なカードとなりました。バッグにくくりつけられるようにしたのとことです。またマークについては、区内の駅だけでなく、区内施設にも普及してもらいたい旨を要望しました。



五日目 衛生・産業経済費

がん対策の普及

がん対策の普及、昨年度の決算特別委員会で口腔がん検診への支援を要望していただきました。その進捗を問い合わせたところ、来年度予算において、区の歯科医師会への支援を増額することで、間接的な支援に結び付けることができました。また、胃がんの検診で内視鏡検査など新たに検査項目を増やした今年度の取り組みについて質問しました。今後も、早期発見、早期治療に向けた区政の取り組みを促しました。

中小企業の経営支援

中小企業の経営支援、中国発コロナの感染予防による歪みが街の商店を中心に中小企業の経営を圧迫しております。地域の飲食店も前年度比4割を下がったり、休業に追い込まれたお店もあります。品川区では500万円を上限とした融資のあっせんを支援しています。その相談件数を聞きましたところ、3月10日時点でおよそ100件の相談があり、業種は飲食店、宿泊事業者とのことでした。引き続き中小企業への支援をお願いします。この経営支援については、今後も補正予算に関わってまいります。随時ご報告致します。

六日目 土木・防災費

井戸の活用

井戸の活用、私が住む大井にも路地に入ると、今は使われていない井戸があります。この井戸が4年前の熊本地震では大活躍したのです。そこで、品川区にある井戸を災害時に、防災井戸として、地域に住む方の生活用水を供給できるようにしてもらいたいことを要望しました。東京23区ですべて10区が井戸を防災井戸として登録しています。杉並区では、ハザードマップに井戸の場所を表示しています。災害が起き、断水になれば、多くの方が避難所に行き、井戸から生活用水を受け取ります。しかし、これでは、避難所から遠い人、足腰の悪い方には体の負担が大きすぎます。そこで、地元の方から、ぜひこの井戸を使うべきとのご意見を受けています。このたびは質問と要望を出しました。区の回答はこれまでです。区は研究していくだけとの回答でしたが、今回は井戸の重要性を把握しているとの回答を得ました。今後は実際に井戸を活用している自治体を歩くことで、見聞を広めていき、品川区が井戸の活用に取り組んでもらうよう活動していきます。

終わり